



増刊号（2019年3月20日発行）
発行：四国手話通訳問題研究会（四通研）

四国手話講座担当講師研修会開催！

2019年3月10日（日）、香川県社会福祉総合センターで平成30年度手話講座担当講師研修会が開催されました。各県で手話奉仕員養成講座や手話通訳者養成講座を担当する講師及び専門学校等で手話指導を担っている講師の計51名が参加しました。



この研修会は、2011年度より四国ろうあ連盟と四国手話通訳問題研究会の共催で開催され、今回で8回目となりました。

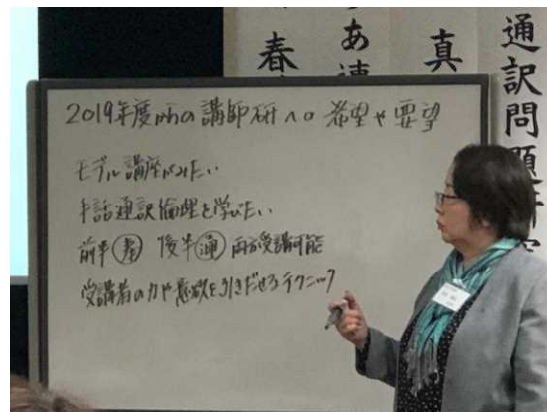
元号が変わる2019年度から、この研修会の内容を一新する予定です。講演の最後に参加講師から研修会に対する要望について確認しました。今後2団体で協議し、参加者にとってより良い研修会を作っていきたいと思います。

2019年度の研修会は、2020年3月に徳島県での開催となります。

【全体会】二人で話そう「よりよい手話講座担当指導講師を目指して」

午前中は「よりよい手話講座担当指導師をめざして」と題して、四国ろうあ連盟・竹島春美理事長、四国手話通訳問題研究会・前田真紀会長の講演がありました。

「どんな人が増えてほしいか」「手話を通して何を学んでほしいか」など、講師がきちんとしたビジョンをもって指導することの大切さを学びました。また、講師の後ろには多くのろう者、多くの手話を学んでいる聞こえる人がいることを意識して講座に臨む等、自身の講師としての姿勢を振り返る良い機会になったのではないかと思います。



【第1分科会：手話奉仕員養成】（担当：愛媛）

参加者33名（ろう者19名・健聴者14名）で進めていきました。

まず、講師として受講生が主役であることや最新の情報提供に努めること、指導の流れなど確認を行いました。次に、KJ法で講師として受講生に伝えたいことを書き出しました。「ろう者の暮らしや困る事を知ってほしい」「ろう者の文化を知り、生活から生まれた手話を大切にしたい」「日本語にこだわらない手話表現をしてほしい」など多くの想いが出され、それは全て講師がしっかりと伝えないといけないことばかりでした。困った受講生対策も最後に出し合い、全体的に今後の指導に活かせる討議となりました。

**【第2分科会：手話通訳者養成】（担当：徳島）**

第2分科会は、高知4名、愛媛2名、香川4名、徳島3名と研修しやすい人数でした。徳島のろう講師の参加がない！と慌てましたが、何とか進行でき安堵の徳島でした。内容は「手話通訳Ⅰ」第8講座を取り上げました。養成の視点について確認をしてから、3つのグループに分かれ、指導案の作成を目標・予想・支援・評価のポイントで考えました。指導の在り方が様々で上手くまとめられず時間だけが過ぎてしまう感もありましたが、発表者の指導の流れを押さえた説明にはさすがベテラン講師！手話ができることと手話通訳ができることの違いに気付かせる視点、段階を追って学習していく受講生の意欲を引き出せるような指導をするためには、指導案の作成が要であり、互いの講師がきちんと評価しあうことも大切だと気づかされました。発言も盛り上がり楽しい研修会になりました。

**【第3分科会：専門学校等】（担当：高知）**

参加者は香川1名、高知5名（担当者含む）の6名で、現状の報告と悩みについて話し合いました。授業数や学生数、到達目標などそれぞれに違っているが、「『どのような人になってほしいか』講師自身が明確な目標を持って指導していきたい」「卒業後は県外に出る学生も多いので、地域だけではなく全国的な情報もできるだけ提供したい」「学生のモチベーションをあげるための講師のスキルアップが必要である」などの意見が出されました。

この分科会は、毎回参加者は数名ですが、この場以外で意見交換できる場がほとんどありません。各県で専門学校を担当している講師は少なく、県内での研修会は困難であると考えられます。現任講師研修の充実と、新たな講師の養成についてもぜひ検討してほしいと考えます。

